



竹内 毅 農業部門（農業土木）

勤務先：株式会社ルーラルエンジニア 札幌支店

私は、札幌市に隣接する北広島市に生まれ育ち、1996年（平成8年）に大学を卒業すると同時にこの業界に入りました。以来13年間、農業土木に関わる、調査、計画、設計業務等を行う建設コンサルタント会社において、主に区画整理や用排水路等の調査設計業務を担当してきました。最近は、既存ストックの有効活用の観点から、新技術工法を採用した更新設計にも携わる機会が増えてきました。

近年、農業土木の分野に限らず、他の分野においても『技術の伝承』という言葉をよく耳にします。熟練した技術者が経験し、蓄積した技術をどのように若手技術者へ伝えていくか？ということは、どの分野においても大きな課題となっています。現在、基準書や指針等の整備が充実し、設計のマニュアル化や、新技術工法の導入等によって、合理的で経済的な設計が可能となりました。その反面、現行の基準書から『古典的な技術』が埋もれていく傾向によって、現在の技術工法等の歴史的な背景を知る機会が限られてきたと思います。

熟練技術者からの経験的な技術の伝承は、われわれ次世代の技術者にとって貴重な財産です。これからも、新しい技術への関心と先輩技術者の『温故知新の技術』を身につける努力を心掛け、農業土木技術者として社会に貢献していきたいと思っています。



次号は、伊藤寛幸さん（農業部門）



大道 雅之 農業部門（農業及び養蚕）

勤務先：拓殖大学北海道短期大学環境農学科

皆さん始めまして、私は、現在、深川市にある拓殖大学北海道短期大学環境農学科に勤めています。この仕事に就いたのは2年前です。それまでは、道の農業改良普及員として長く勤めていました。農家の方々と直接技術的な話をする職場から教育機関であり、自分の子供と同年代の学生と毎日接する職場に替わって3年目を迎えています。ようやく短期大学の環境に馴染んできたところです。今後ともよろしくお願いいたします。

ところで、私の出身は神戸市で大学は高知大学です。そんな私が北海道に渡ってきたのは農業関係の仕事に就きたいということと、日本の農業の未来は北海道にかかっているのではとの思いからでした。そしてまさに北海道は日本の食糧基地として国民の胃袋を支えていることは皆様ご承知のとおりです。しかし、その食糧基地が、日本のこの数十年に及ぶ減反や安価な海外農産物に押され大変厳しい状況におかれています。安全・安心な農産物の生産はもとより国民の食糧確保の面からも北海道の農業の活性化が望まれます。技術士として技術的な面から、また、現在私のおかれている農業後継者の育成・食育などを通じて、北海道農業の活性化ために少しでも貢献できればいつも考えています。是非、深川に来られる機会があればお立ち寄りください。そして一緒に北海道農業について考えていければと思います。ちなみに拓殖大学北海道短期大学では一般市民に広く公開している「農場公開デー」を本年7月15日（水）に「農業セミナー」を12月2日（水）に開催いたしますので、気軽にご参加ください。



次号は、久保勝照さん（農業部門）

エンジニアパーク

Engineer *Ring* Park



齋藤 礼位 建設部門（土質及び基礎）農業部門（農業土木）

勤務先：株式会社シーウェイエンジニアリング TEL：011-824-6001

この原稿が会員の方々の目に触れる頃には時季はずれの話題となりますが、日本中がWBCの優勝に沸き返っていたころ、最後の追い込みに忙殺されながら「我々建設コンサルタント業の年度末は、どうしてこうも辛く、苦しい日々を送る羽目になるのだろう」と例年同じことを言っていました。もっと均等に仕事があれば…と思うのですが、「忙しいのが夏と冬ではどちらがいいの？」と聞かれれば、アウトドア派である私としては北海道の短い夏を満喫し、冬に蓄えるというスタイルが望ましく、今はこれから迎える夏に思いを馳せて新年度へと徐々に気持ちを切り換えています。

私は札幌に生まれ育ち、学生時代を室蘭で過ごした後、舞い戻って札幌に根を下ろしました。これまで建設・農業分野を中心に多方面の分野でお世話になりましたが、現在は主に軟弱地盤に関わる諸問題に携わることが多くなっています。農業事業では、畑作と施設園芸の試験栽培を実施したこともあり、その時に詰め込んだ知識を自宅の家庭菜園で披露したところ、農家の娘だった奥方に「それじゃあいい作物は育たん！」と、経験に培われた実践的な理論によって一蹴されてしまいました。真の技術というのは、経験を積み重ねてこそ実用化するものだと思います。技術士の資格取得が机上の勉強によるところが大きかった私にとって、これからも多くの経験を積み重ね、内外の人たちに認められるよう精進あるのみです。）



次号は、月館瑞寛さん（建設／農業部門）



中里 浩治 建設部門（道路）

勤務先：株式会社シビテック 道路計画部

私は、入社以来20年強にわたり道路計画・道路設計に携わってきました。同時に、技術士資格にあこがれ、「私もいつの日か技術士になれるだろうか？」と考えながら設計業務に邁進して来ました。憧れが強かったせいか、「自分の技術力はまだ技術士としてふさわしくない」と決めつけ、それを理由に試験準備から怠けていましたが、社内の立場と部下の視線を感じ、一念発起して平成20年に合格することができました。

私は、大学の土木工学科を卒業しましたが、土木がどういうものか知らずに入学したことから、学生時代は、土と木の工学？ 将来自分はどんな仕事をしているのだろうか？と不安になり、ヘルメットをかぶりスコップを持った自分を想像していたのを覚えています。今こうして建設コンサルタントに勤めている私でさえ、学生時代はこんな認識でしたから、公共事業の削減、談合問題、無駄な公共事業、道路特定財源の問題など、現在の建設業界の置かれている状況を考えると、若者の土木離れは致し方ない状況です。やはり、建設業界に未来が感じられ、良い学生が集まるようにならなければ、業界の未来がないと最近危機感を感じています。少子高齢化、人口減少の時代になり、社会資本整備の変革期を迎え、土木の職場が魅力的になり、多くの若者が土木を目指すように、私も技術者の一人として、既存ストックのメンテナンス、地球環境との共生、事業の透明化など、多様化した問題の解決に微力ながら貢献していきたいと考えています。）



次号は、広川貴宣さん（建設／総合技術監理部門）



干川 裕 水産部門（水産土木）

勤務先：北海道立中央水産試験場水産工学室

私は群馬県の出身で、大学は琉球大学に進み、修士課程まで7年間を沖縄で過ごしました。その後、北海道大学大学院（現地環研）でヒザラガイの研究をしていましたが、忍路臨海実験所の飲み仲間の紹介で道立水産試験場に勤務することになりました。それから25年間、網走、鹿部、余市と転勤しながら、アワビを中心に岩礁域の水産生物に関する研究に従事してきました。北海道の日本海南西部沿岸はご存知のように「磯焼け」が顕著で、餌料不足によるウニやアワビの減産が深刻な問題となっています。また、藻場は、ニシン及びハタハタの産卵場や、多くの魚の保育場、栄養塩吸収固定による水質清浄化等の多面的機能を持っています。そのため、水産業の振興だけでなく、沿岸環境の保全という観点からも、藻場の造成・回復等の対策を講じる必要があると考えています。

道立研究機関は、来春から非公務員型の独立行政法人としてスタートします。これまでも産業研究機関として機能してきましたが、さらに現場のニーズを反映した研究と技術開発を通して、北海道の水産業に貢献する責務を担って行かなければなりません。技術士の資格を取る過程での勉強は、研究成果をいかに産業にフィードバックするかを考える良い機会だったと思っています。今後も、自らの継続研鑽とともに、若手職員の技術士受験をサポートしていけたらと考えていますので、宜しくお願いします。



次号は、岩成正勝さん（水産部門）



杉本 英一 建設部門（都市及び地方計画）／総合技術監理部門

勤務先：北海道十勝支庁帯広土木現業所企画総務部建設指導課

我が国はかつて欧米にキャッチアップを達成したと言われてきましたが、昨年、ドイツのルール地方エムシャーパーク地域を訪れたときに、本当にそうだろうかと感じました。

炭鉱・製鉄業で繁栄したルール地方の荒廃、衰退ぶりはすさまじいものでしたが、自然環境の再生や炭鉱施設といった負の遺産の世界遺産への転換など地域のアイデンティティを明確化しつつ質の高い空間を形成し、地域のイメージを変え、自信と誇りを取り戻し、見事に再生を遂げていました。また、自動車依存社会から転換し、公共交通機関や歩行者空間の復権などにより、まちなかには多くの人々が集い、誰でも公共交通機関で移動が可能など豊かな生活を実現しつつあるように感じました。知恵を絞り継続的に取り組む姿にはいまなお学ぶべき点が多いと思います。我が国の都市政策に変革が求められている今、本道のまちづくりもこれからがまさに正念場と思います。

私は、東京でのコンサルタント勤務を経て、Uターンし道職員となり、建築住宅、都市計画・まちづくり行政に携わってきました。前任地の空知支庁では、産炭地域の活性化に向け、ドイツの例も参考に多くの方々と議論を重ね提言をとりまとめ（支庁HP参照）、現在、道の新計画の地域重点プロジェクトに位置づけられ、次のステップへと移行しています。今後とも、地域のまちづくりなどに貢献できるよう多くの方々とともに取り組んでいきたいと考えています。



次号は、紺野 寛さん（建設部門）

エンジニアパーク

Engineer *Ring* Park



藤原 充志 環境部門（環境測定）

勤務先：株式会社ズコーシャ 環境評価センター

私は、2007年度（平成19年度）の技術士2次試験に合格し、晴れて技術士となりました。現在は、十勝・帯広にあります総合コンサルタント会社に勤務し、環境測定・分析をはじめとした環境関連の業務に携わっています。休日には、業務で培った測定の経験を生かし？趣味である陸上競技の審判員として、選手の跳躍や投擲の距離を測定しています。小さいながらも技術の社会還元には一役買っていると自負しております。

私が「環境」を仕事として意識したのは高校生の頃でしたが、その原点には幼少の頃に近所の裏山で笹原を駆け回ったり、小さな沼で蛙や昆虫と触れ合ったりして、自然を身近に感じていたことがあったと思います。大人になった今でも初心を忘れず、時間があれば湿原巡りなどをして、野生の勘を鈍らせないよう努めています。大人になった今でも新たな発見が多々あり、自然の奥深さや緻密さに驚かされます。

近頃ではエコブームということもあり、大人も子どもも『環境』や『エコ』という言葉に敏感になってきており、非常に喜ばしい状況だと思えます。一方で、自然と触れ合う機会が少なく、環境について実体験から学ぶことが減少していることは残念でなりません。

まだ経験の浅い私ですが、今後も継続して研鑽を積み、技術力の向上や正しい知識の普及など技術士の名にふさわしい活動に邁進する所存です。



次号は、廣永行亮さん（農業部門）



堀田 祐巳 機械部門（精密機械）

勤務先：堀田技術士事務所 TEL：0154-24-5559 E-mail：horita@office.email.ne.jp

網走管内美幌町生まれ。小学2年生のときに藻琴山の中腹にある、全生徒数12人の小さな小学校へ転校。担任の先生は父親でした。大自然の中で伸び伸びと育ち、釧路市の高校を卒業して東京へ。大学時代はロボットの研究に夢中になりました。その後、東京の会社に就職。記録のできるレーザービデオディスクの開発に携わりました。当時の夢は、MDサイズのディスクに、2時間の動画を記録すること。それから21年間、CD、DVD、ブルーレイドライブの開発を通して、当初の夢は叶ったと考えています。

技術士になろうと決めたのは、二十代後半のとき。最も難しく権威のある国家資格であり、相当な技術実績がないと合格は難しいことを知りました。幸い 世界で最も薄い光ピックアップの開発に成功し、生産数が2,000万台を突破したことから、この実績を経験論文に選定し、試験勉強を開始しました。指導技術士から「技術士を目指すのなら、自分の担当分野で、日本の5指に入るくらいの実力が必要だ」と言われ、自分の実力不足を痛感。悔しくて涙を流したこともありました。どうにか技術士の仲間入りができたのは41歳のときです。昨年父親が倒れたこともあり、会社を辞め釧路市の実家で技術士事務所を開業しました。今までの経験を生かし「自分に出来ることは何か？」「北海道の方々のお役に立てることは何か？」を探る毎日です。将来の夢は、この素晴らしい地で新しい技術を立ち上げ、それを世界中に広めること。

行き詰った時、先輩技術士の言葉を思い出します。「自然に学び 自然を真似る」忘れられない言葉です。



次号は、井上涼子さん（建設部門）